

東証スタンダード | 証券コード: 3083

中期経営計画

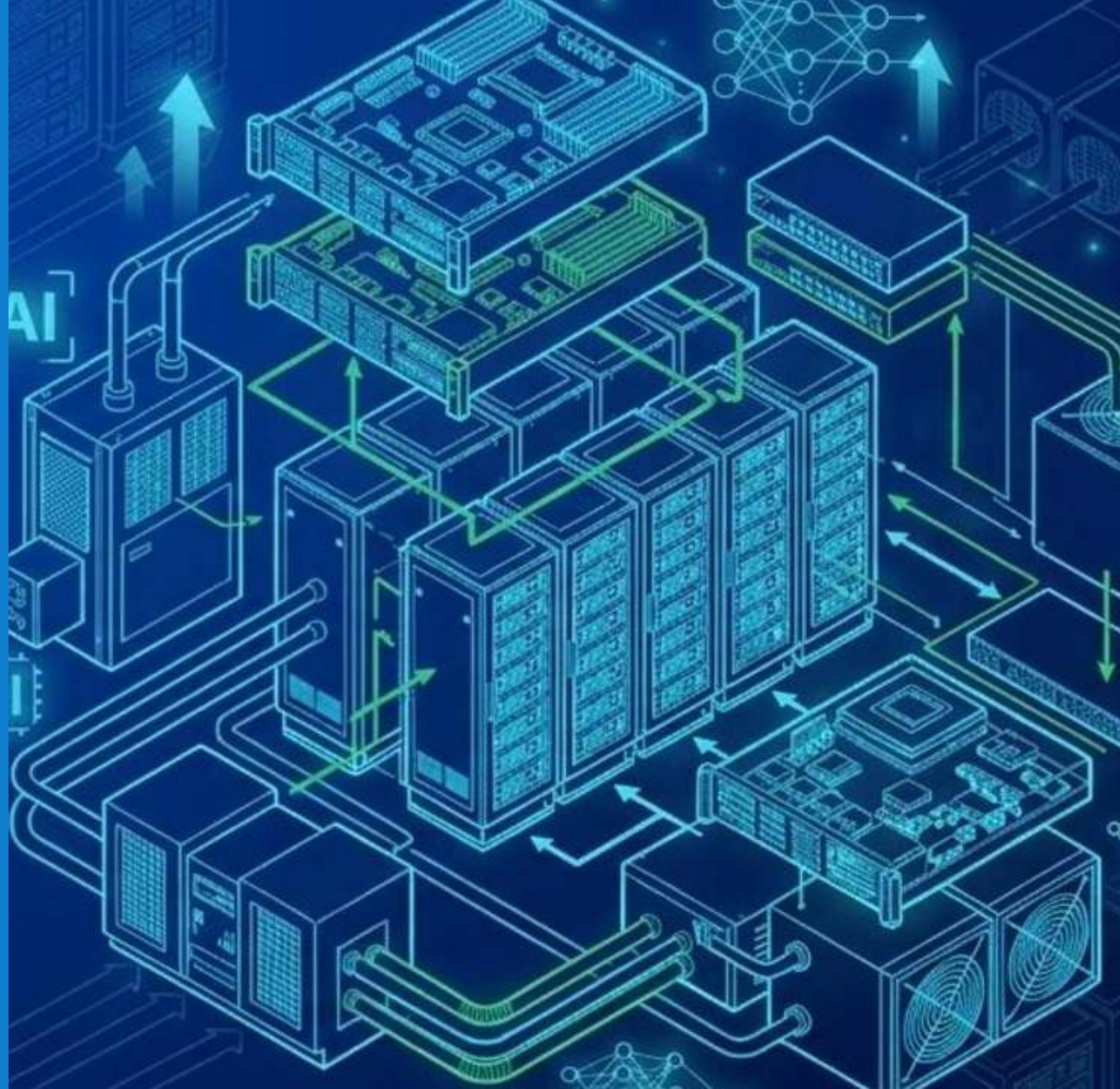
FY2027.2 — FY2029.2

収益構造の抜本的転換で高成長を目指す

スターシーズ株式会社

代表取締役社長 鈴木 雅順

2026年4月17日

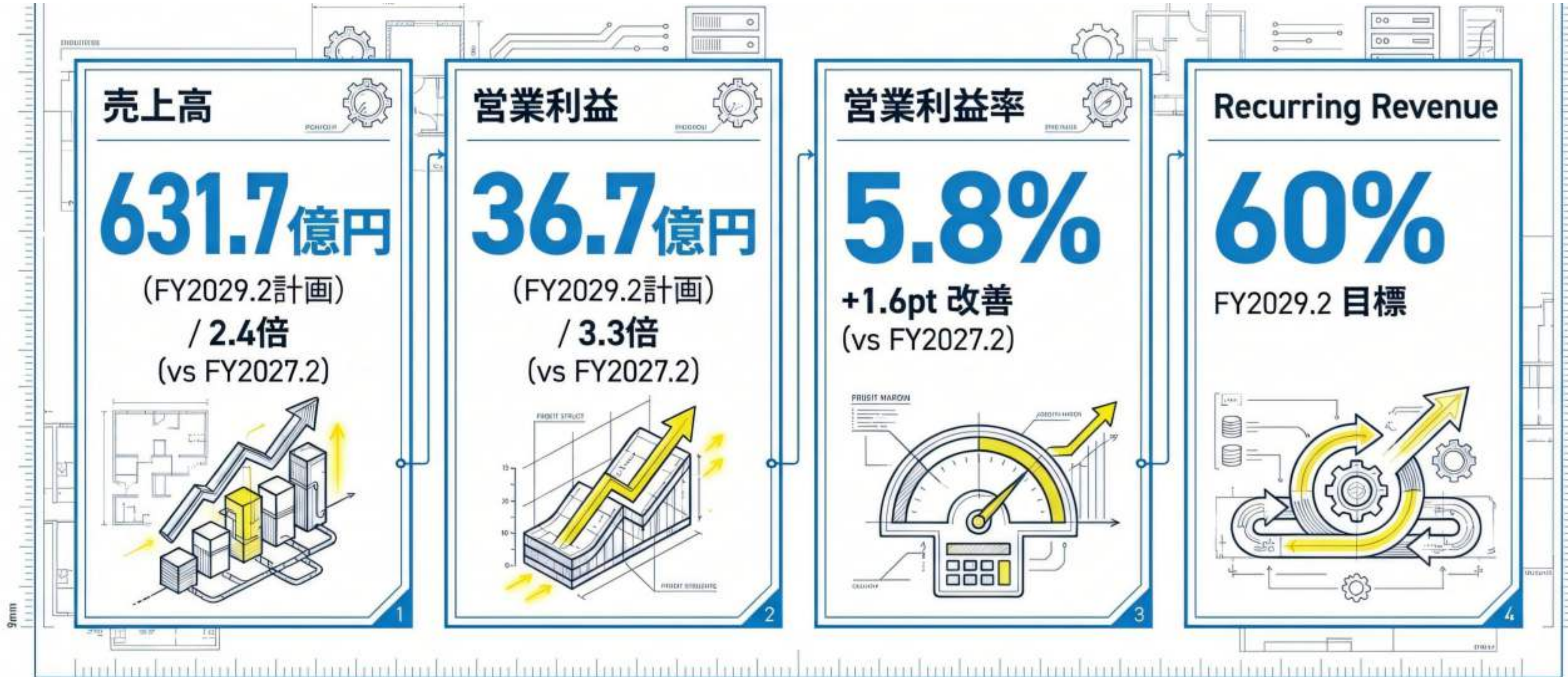


I	エグゼクティブサマリー Executive Summary	01	VII	事業別計画 Business Plans by Segment	20
II	経営ビジョン CEO Message	04	VIII	経営戦略と実行管理 Operations Strategy	28
III	事業環境認識 Market Environment	07	IX	財務計画 Financial Plan	29
IV	現在の事業基盤 Current Business Base	09	X	株主価値の向上とリスク管理 Shareholder Value & Risk Management	33
V	中期経営計画の全体像 Mid-term Plan Overview	13	App	Appendix Corporate Profile & Glossary	35
VI	ビジネスモデル — Starseeds Digital Business Model	15			

エグゼクティブサマリー

Executive Summary

財務ハイライト：アパレルからAIインフラへの転換



FY2027.2-FY2029.2: 中期経営計画を牽引する4つのKey Highlights



1. 高成長

全社売上高CAGR +56%。テクノロジー事業（GPU+データセンター）売上高CAGRは+80%超。GPUサーバーとDCが牽引しAIインフラ企業へ完全転換。



2. 利益3.3倍

営業利益11.0億円から36.7億円へ。データセンター(DC)事業が増益を強かに牽引。高利益率事業（DC/蓄電池各10%）の構成比拡大。



3. Recurring Revenue

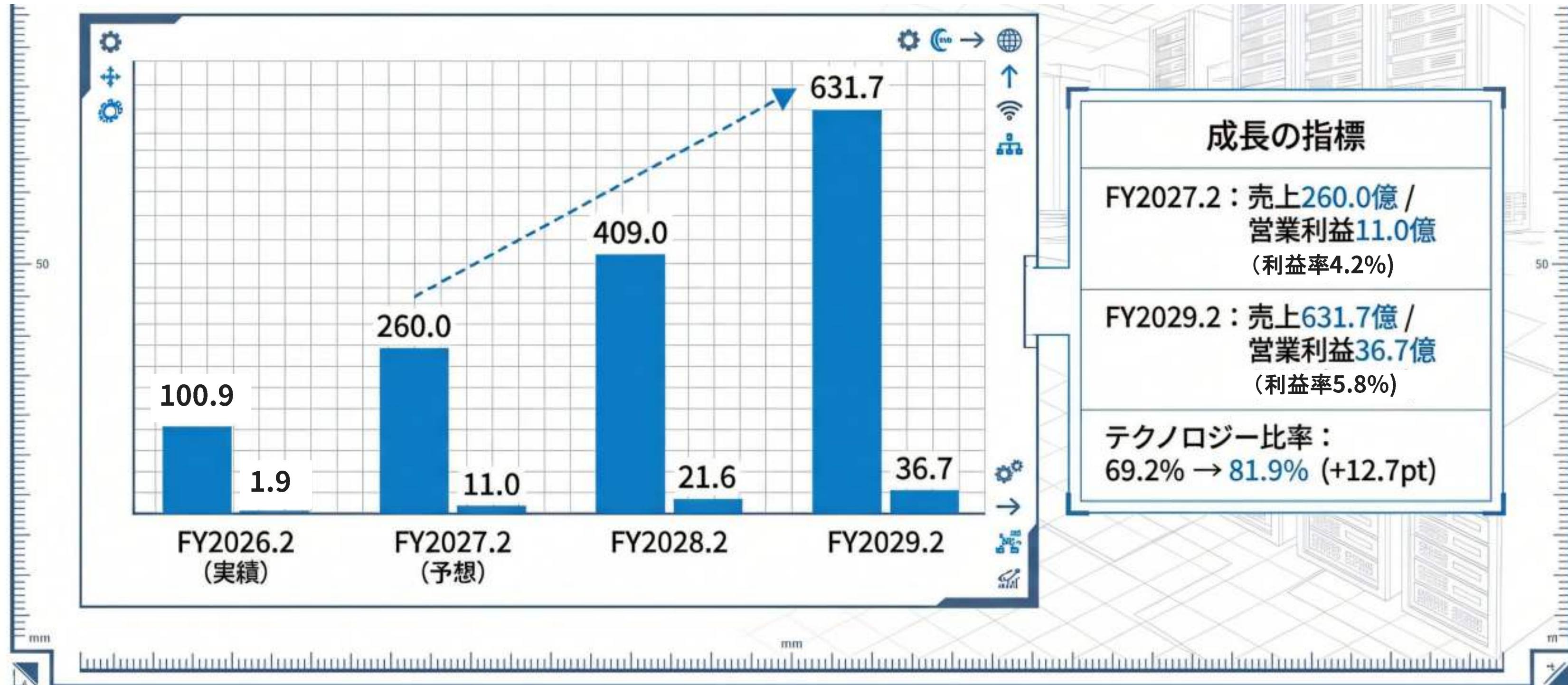
FY2029.2にストック収益比率60%を目標。データセンター長期契約とGPUレンタル（ARR>40%）で収益可視性を向上。



4. エンドツーエンド

GPU+データセンター+Network+Coolingを統合提供。MiTAC-SYNNEXグループ等との連携によるワンストップAIインフラ。

売上高2.4倍・営業利益3.3倍の成長軌道





経営ビジョン

CEO Message

CEO Message : AIインフラで日本を支える



「スターシーズは、アパレルからAIインフラへの大転換期にあります。GPUサーバー、データセンター、蓄電池の3つの成長エンジンでFY2029.2には売上高631.7億円、営業利益36.7億円を目指します。テクノロジー×エネルギーで日本のAIインフラ企業へ進化します。」

— 代表取締役社長 鈴木 雅順

アパレル

テクノロジー
× エネルギー

Key Takeaway:
テクノロジー×エネルギーの融合による圧倒的スケールアップ。

4つの事業柱と、LTVを極大化する「成長の3ステップ」

GPUサーバー

FY2029.2売上337.5億円。MiTAC-SYNNEXとの調達契約による供給確保。

データセンター

FY2029.2売上高180億円。液冷AI DC (PUE<1.1)、稼働率95%目標

蓄電池

Y2029.2売上101.4億円。受注残高50億円超。

アパレル

赤字縮小 (▲2.5→黒字化)。SKU最適化。

STEP 1 (売上最大化)

GPU/DC供給確度 × 販売網の拡大 (MiTAC-SYNNEX調達等)。

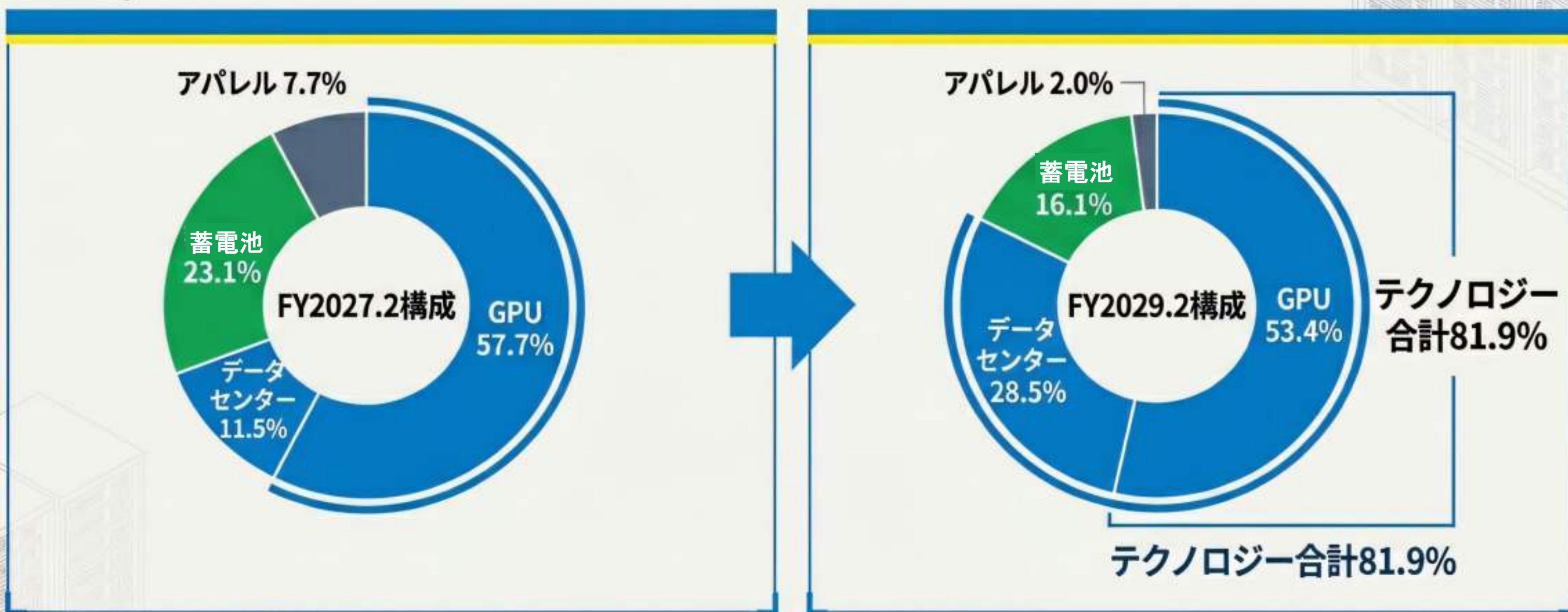
STEP 2 (収益安定化)

高稼働率 (GPU 90%+、DC 95%) × 長期契約によるARR比率60%目標。

STEP 3 (LTV拡大)

保守・運用・コンサルティングなどサービス付加価値の向上。

ポートフォリオの完全転換：テクノロジー＋エネルギーで98%へ



Insight: 2年でアパレル事業の割合は2.0%まで低下し、テクノロジー事業が全社売上の8割超を占めるAIインフラ企業へと進化する。



事業環境認識

Market Environment

市場環境分析：AI・データセンター・蓄電池市場の成長の追い風

GPUサーバー/AIインフラ

- 世界のAIサーバー市場: 2025年約\$50B → 2028年約\$120B (CAGR+30%超)
- 日本のAI関連投資: 政府「AI戦略」で官民年間1兆円規模
- B200(Blackwell): 2026年本格出荷。
推論性能が大幅向上
- 液冷データセンター: 高TDP GPU対応の必須技術として急速に普及

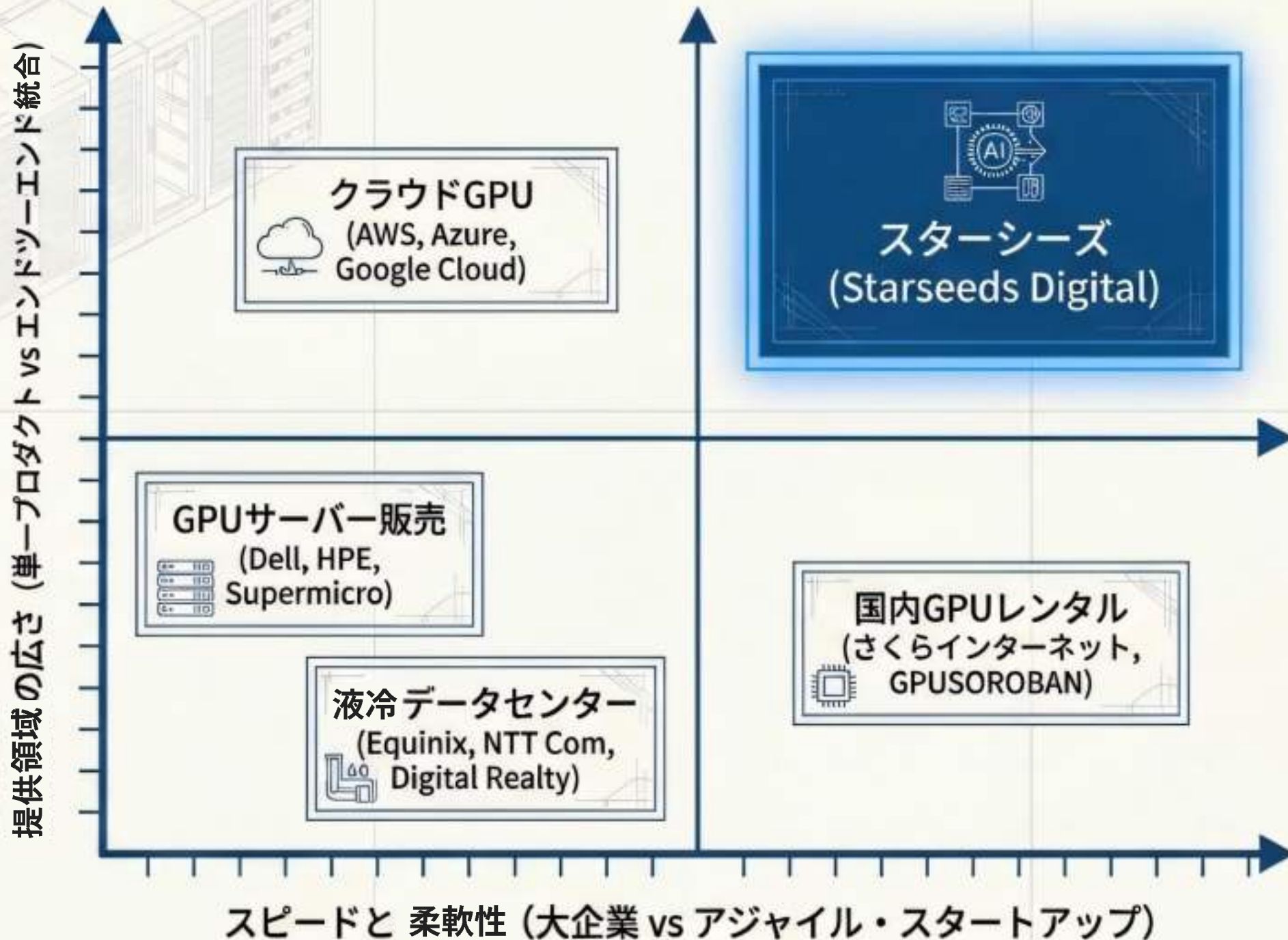
データセンター市場

- 日本のデータセンター市場: 2025年約1.5兆円 → 2028年約2.5兆円
- AIワークロード対応データセンターへの需要が急増
- 政府のデジタルインフラ投資

系統用蓄電池市場

- 日本の蓄電池市場: 2030年に約1.5兆円 (NEDO予測)
- FIT/FIP制度終了後の再エネ出力制御対策として需要増
- 容量市場+需給調整市場+電力卸市場の3収益源
- 経産省補助金: 系統用蓄電池導入支援

競合環境マトリクス：国内で希少な「End-to-End」提供体制



Starseeds' Differentiation

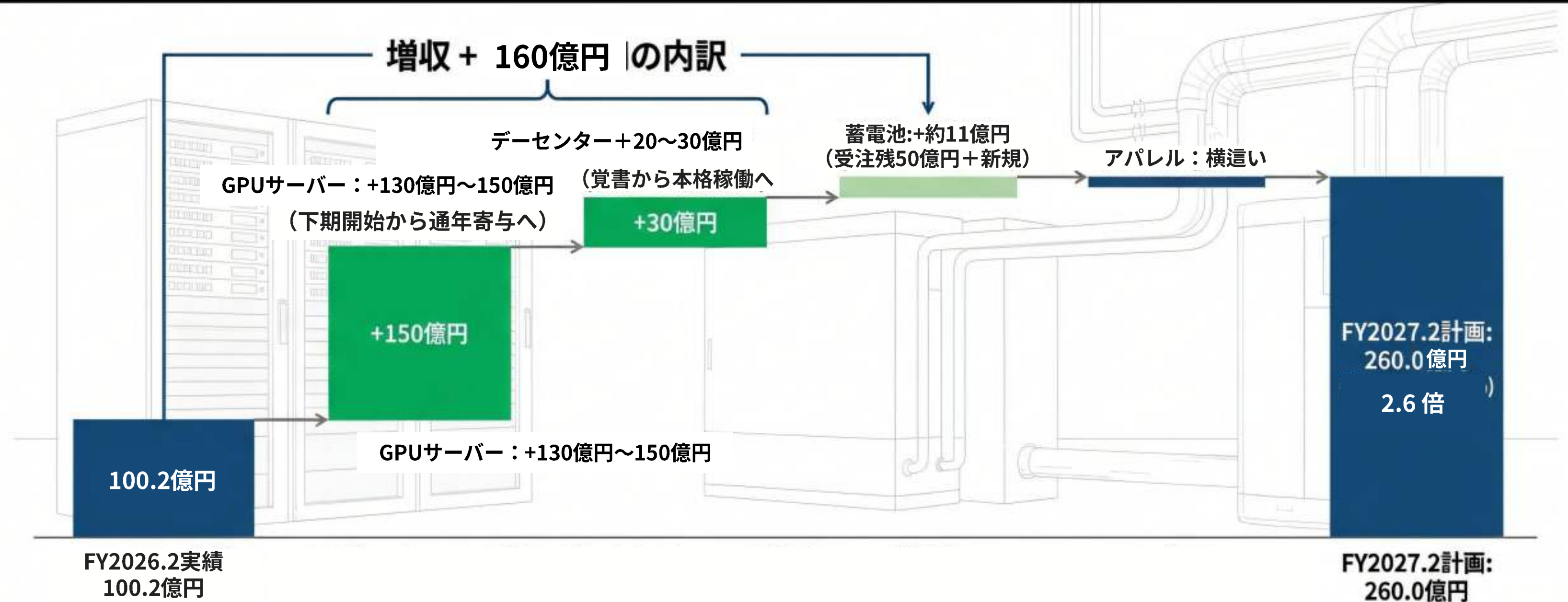
- 差別化1: GPU + データセンター + Network + Coolingの一社完結 (国内限定的)。
- 差別化2: スタートアップの意思決定速度 × MiTAC-SYNNEXの圧倒的調達力。
- 戦略的フォーカス: 大手DC事業者に対し、ニッチな「液冷AIデータセンター」に特化して勝ち切る。

IV

現在の事業基盤

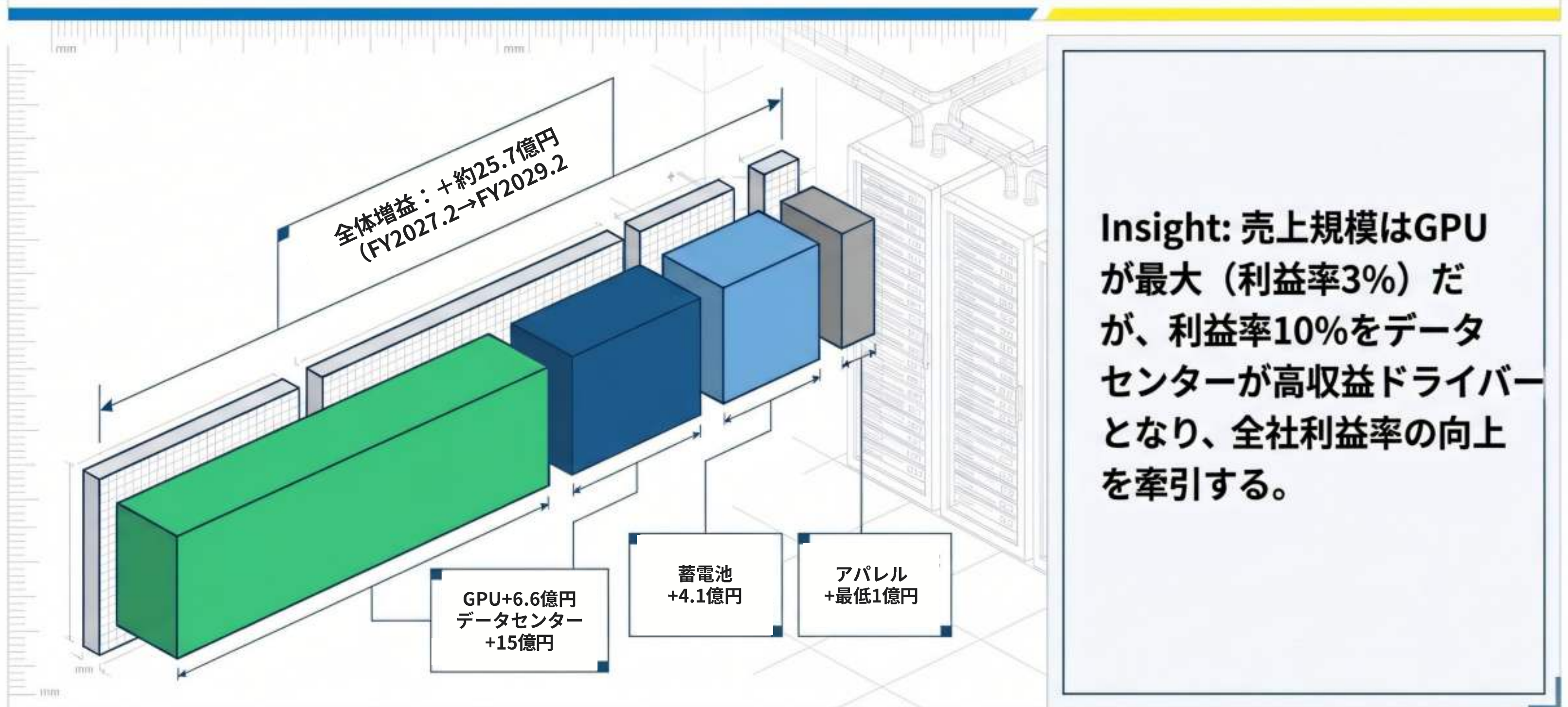
Current Business Base

FY2026.2→FY2027.2 ブリッジ分析：新規事業による爆発的成長



Key Insight: 増収の大半は、前年度にほぼ存在しなかったGPUとDCの新規規事業。2回の上方修正が示す通り、事業は加速度的に立ち上がっている。

営業利益の構造変化：GPU/データセンターが増益の8割を牽引




4事業セグメントの数値目標ハイライト（FY2029.2到達時）





I. GPUサーバー	売上高	337.5億円	営業利益	10.1億円
II. データセンター	売上高	180.0億円	営業利益	10.1億円
III. 蓄電池	売上高	101.4億円	営業利益	18.0億円
IV. アパレル	売上高	12.8億円	営業利益	黒字化
全社トータル	売上	631.7億円	営業利益	36.7億円

経営の規律：強固なキャッシュ生成と利益率改善の両立

効率性 (Capital Efficiency)

- 
 • **CCC (現金化サイクル) :**
目標30-45日
- 
 • **ハードウェア在庫回転日数:**
<45日 (GPU/サーバー)
- 
 • **アパレル在庫回転日数:**
<90日 (不採算SKU削減)
- 
 • **Recurring Revenue:**
60% (ストック比率目標)

収益性 (Profitability)

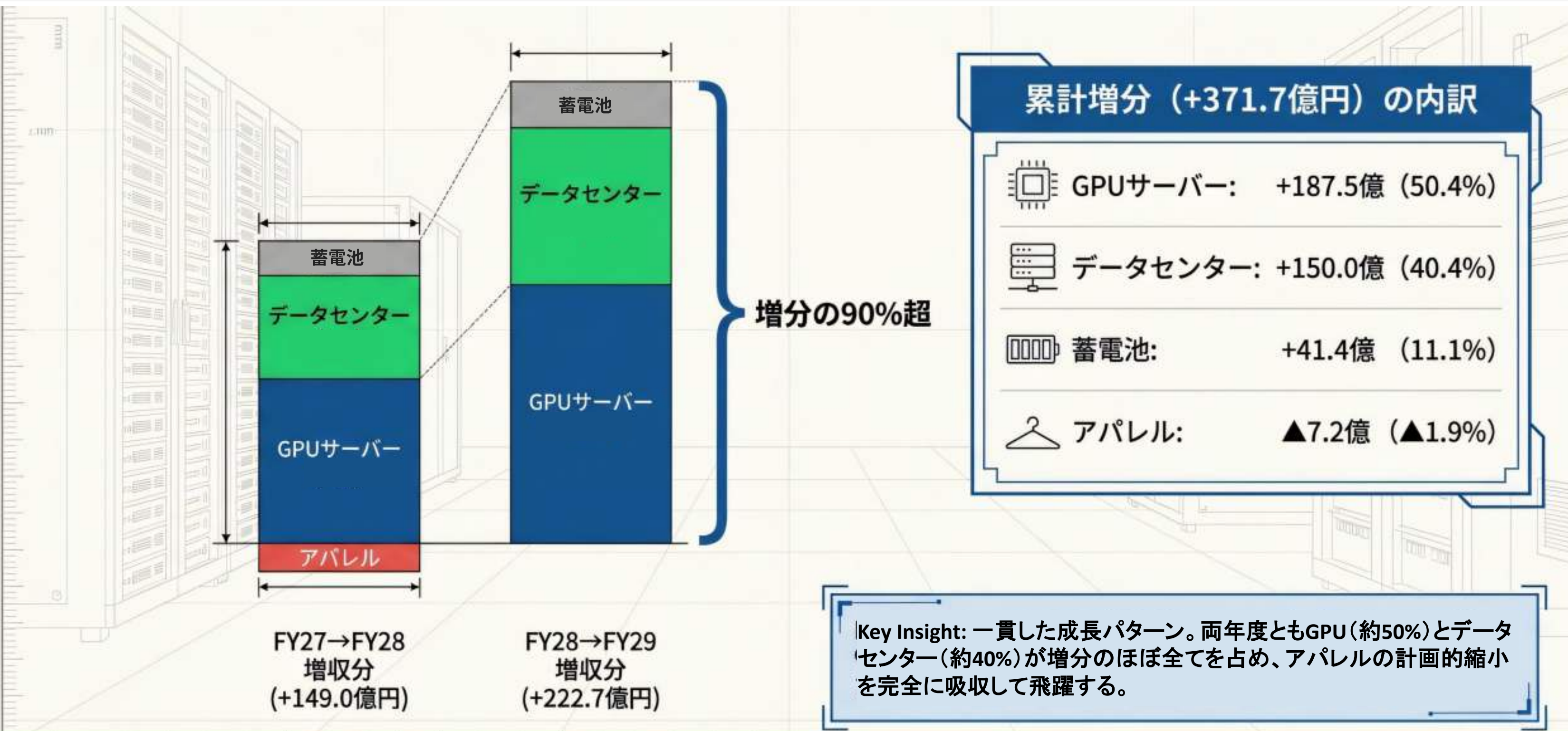
- 
 • **全社営業利益率:**
4.2% → 5.8% (+1.6pt改善)
- 
 • **データセンター/蓄電池 利益率:**
各10.0%を維持
- 
 • **GPU営業利益率:**
3.0%を維持
- 
 • **アパレル営業損失:**
▲2.5億 → 黒字化 (1~2.5億円程度改善)

V

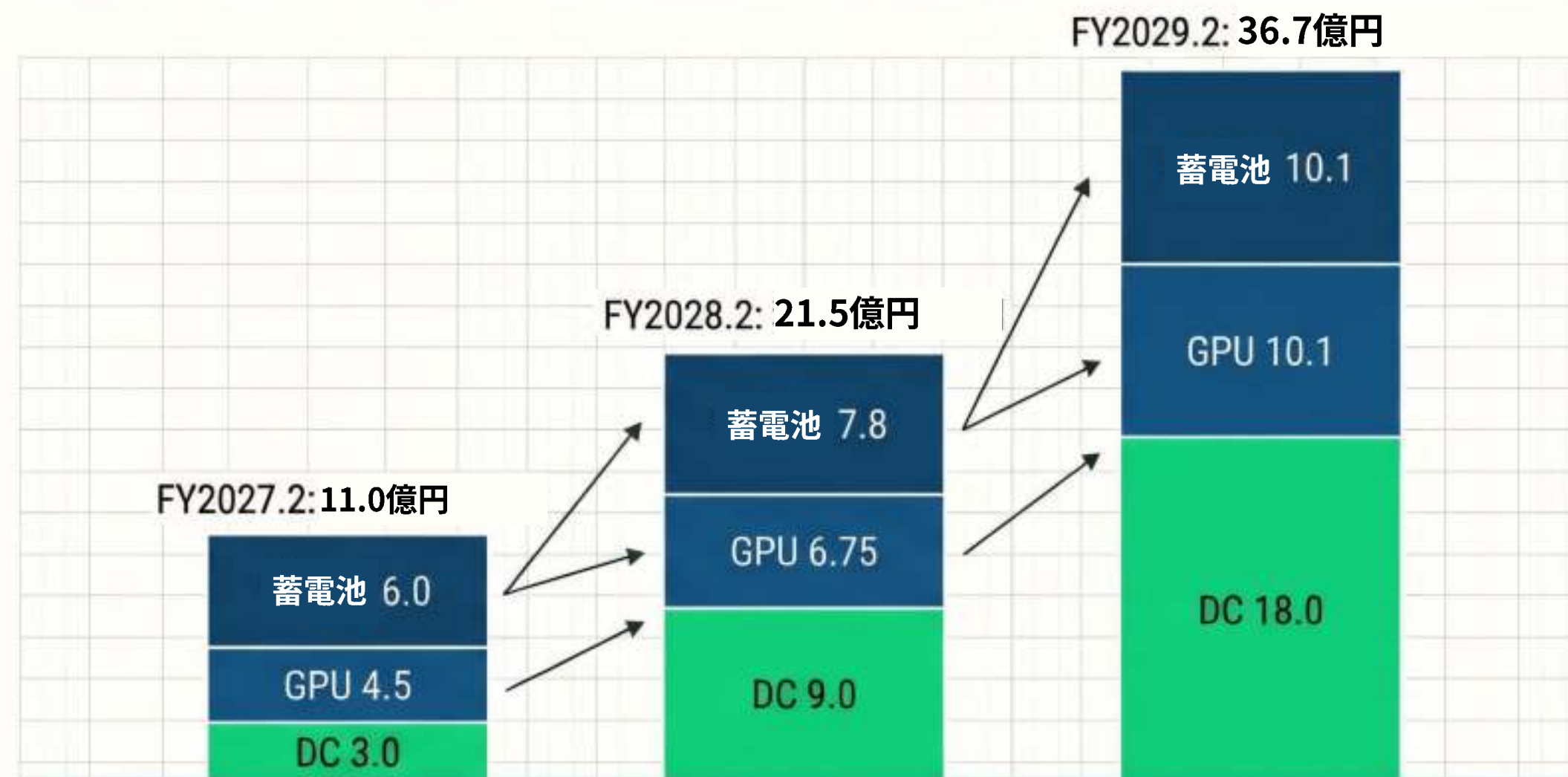
中期経営計画の全体像

Mid-term Plan Overview

売上高成長の解剖：GPUとデータセンターが増分の90%超を占める



営業利益成長の解剖：事業ミックスの最適化により利益率5.8%へ



※アパレル赤字は別掲でマイナス要因として縮小中

Strategic Point: セグメント別利益率は全て現状維持（DC 10%, GPU 3%）という極めて保守的な計画。それでも、高収益事業の構成比上昇により、全社営業利益率は4.2%から5.8%へと着実に改善する。

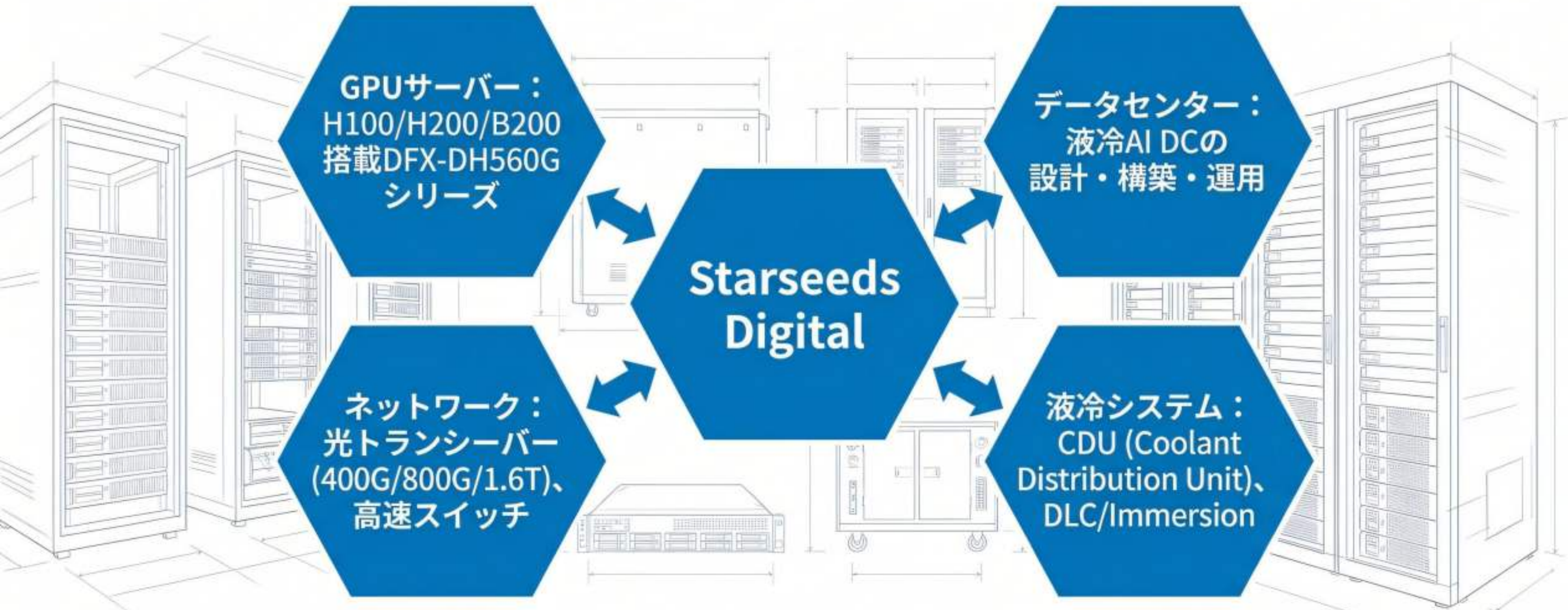
VI

ビジネスモデル — Starseeds Digital

Business Model

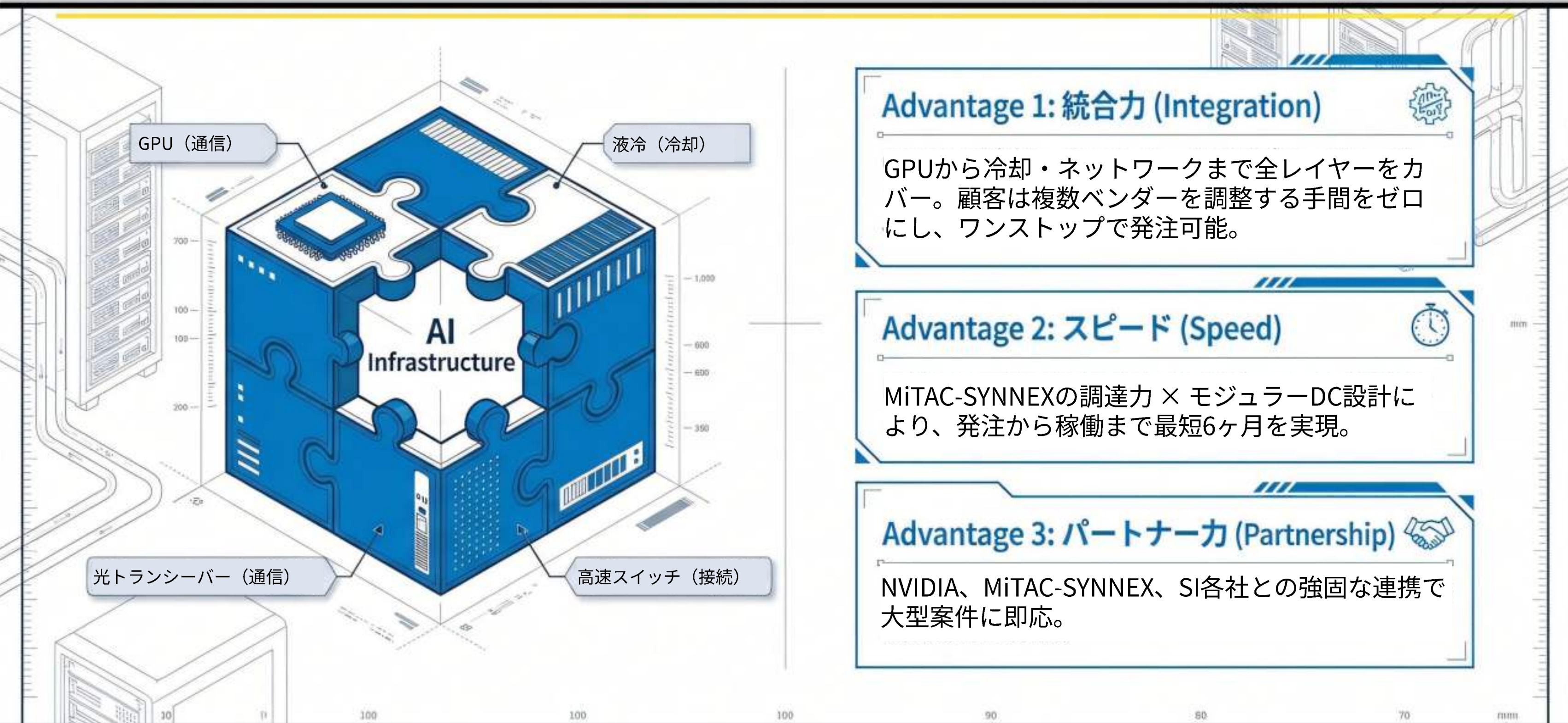
Starseeds Digital : AI時代のインフラを一気通貫で提供

Mission: 「AI時代のインフラを、調達から運用まで一気通貫で提供する」



Target FY2029.2 : 売上高517.5億円(全社の81.9%)、営業利益28.1億円を占める中核事業体。

エンドツーエンドの優位性：3つの差別化要素



Advantage 1: 統合力 (Integration)

GPUから冷却・ネットワークまで全レイヤーをカバー。顧客は複数ベンダーを調整する手間をゼロにし、ワンストップで発注可能。

Advantage 2: スピード (Speed)

MiTAC-SYNNEXの調達力 × モジュラーDC設計により、発注から稼働まで最短6ヶ月を実現。

Advantage 3: パートナー力 (Partnership)

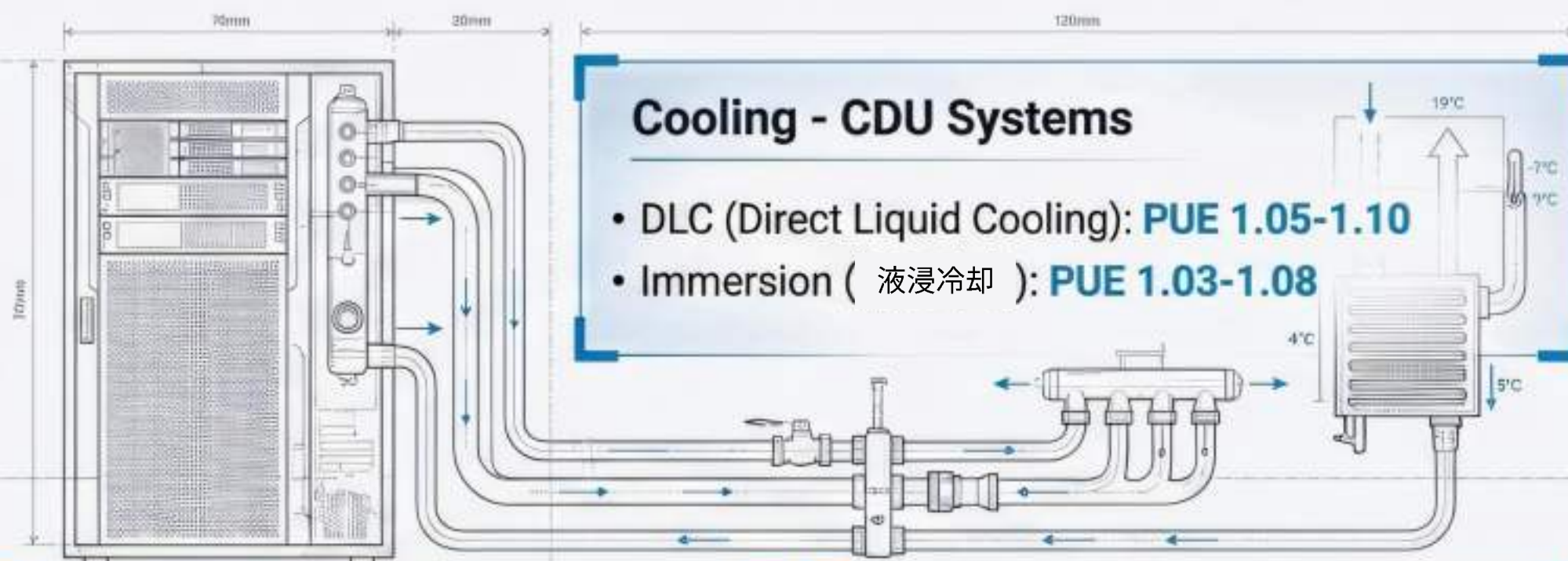
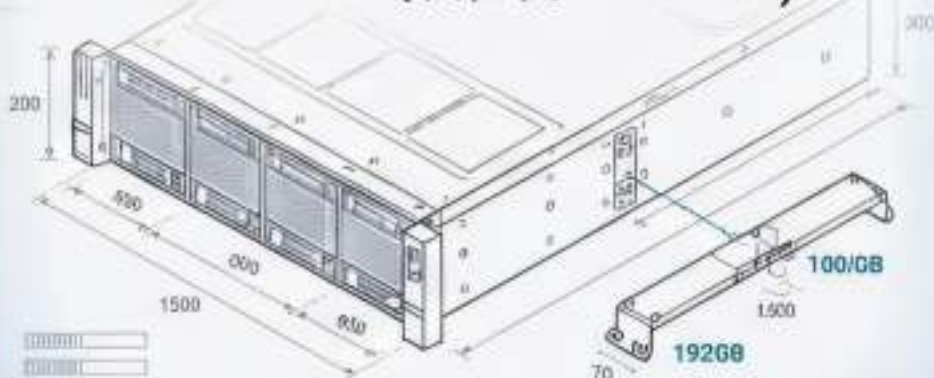
NVIDIA、MiTAC-SYNNEX、SI各社との強固な連携で大型案件に即応。

フルスタックのAIインフラ製品群：NVIDIA最新GPU全世代に対応

GPU Servers - DFX-DH560G Series

GPU Servers - DFX-DH560G Series

- **H100モデル**: 80GB HBM3, 700W TDP (現行主力)
- **H200モデル**: 141GB HBM3e, 700W TDP (大規模学習・推論)
- **B200モデル**: 192GB HBM3e, 1000W TDP (次世代Blackwell)

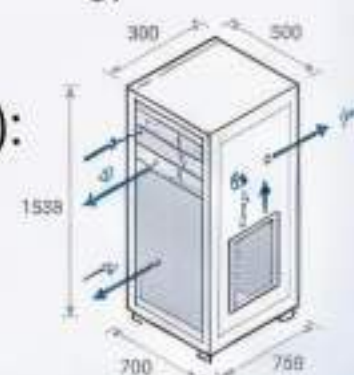


Cooling - CDU Systems

- DLC (Direct Liquid Cooling): **PUE 1.05-1.10**
- Immersion (液浸冷却): **PUE 1.03-1.08**

Cooling - CDU Systems

- **DLC (Direct Liquid Cooling)**: PUE 1.05-1.10
- **Immersion (液浸冷却)**: PUE 1.03-1.08

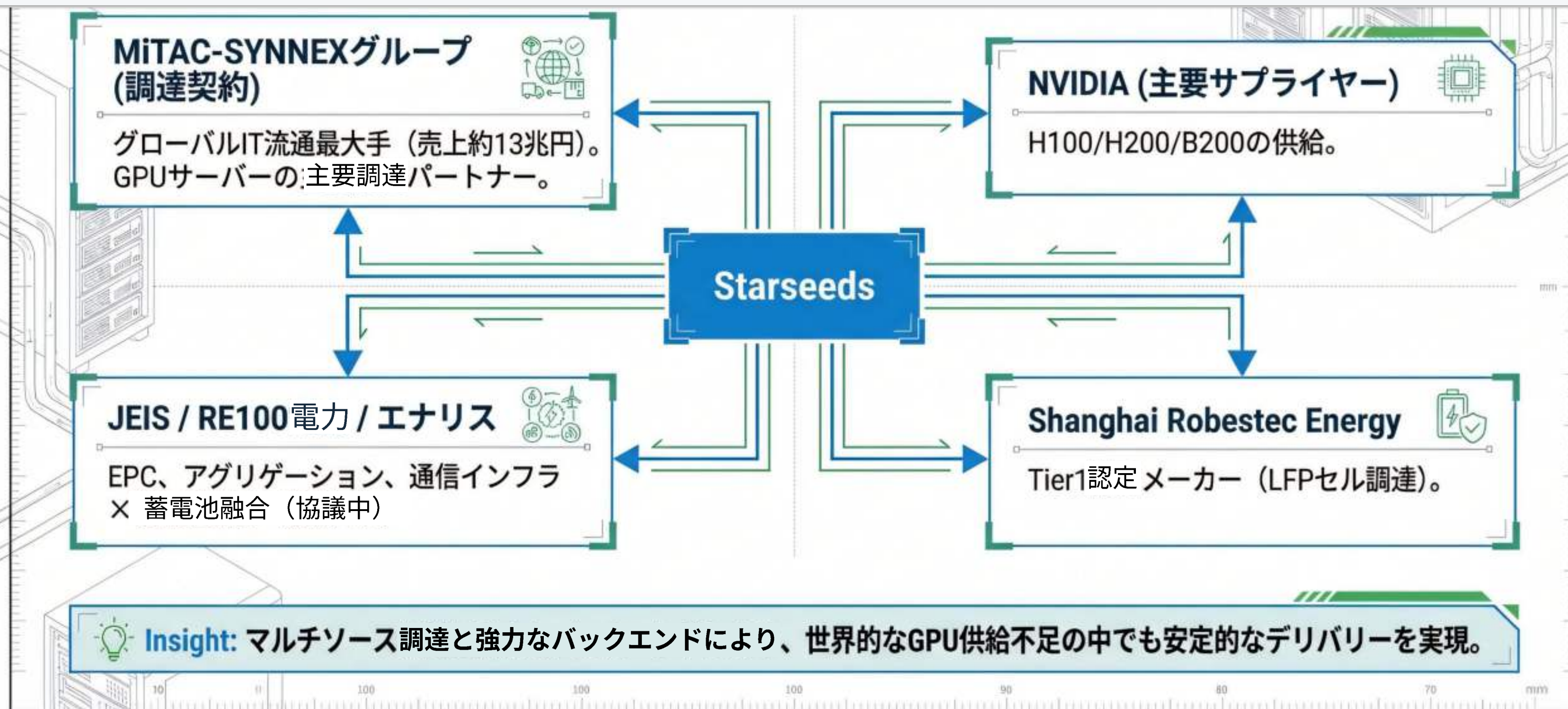


Networking

- **光トランシーバー**: 400G (QSFP-DD), 800G (OSFP), 1.6T (次世代)
- **NIC**: NVIDIA ConnectX-7 (200Gb/s)



強固なグローバルサプライチェーンとパートナー網



エネルギー×テクノロジー：特徴ある「自給型シナジー」構造

Short-term Synergy (FY27-FY29)

- 電力調達最適化：蓄電池の電力市場知見をDCに活用。
- 需給調整コスト削減：DCの電力ピークシフトに蓄電池を活用。



Long-term Synergy (FY29+)

- 再エネデータセンター：蓄電池+再エネでカーボンニュートラル対応（ESG要件合致）。
- マイクログリッド&VPP：DC+蓄電池+太陽光の統合運用による仮想発電所化。



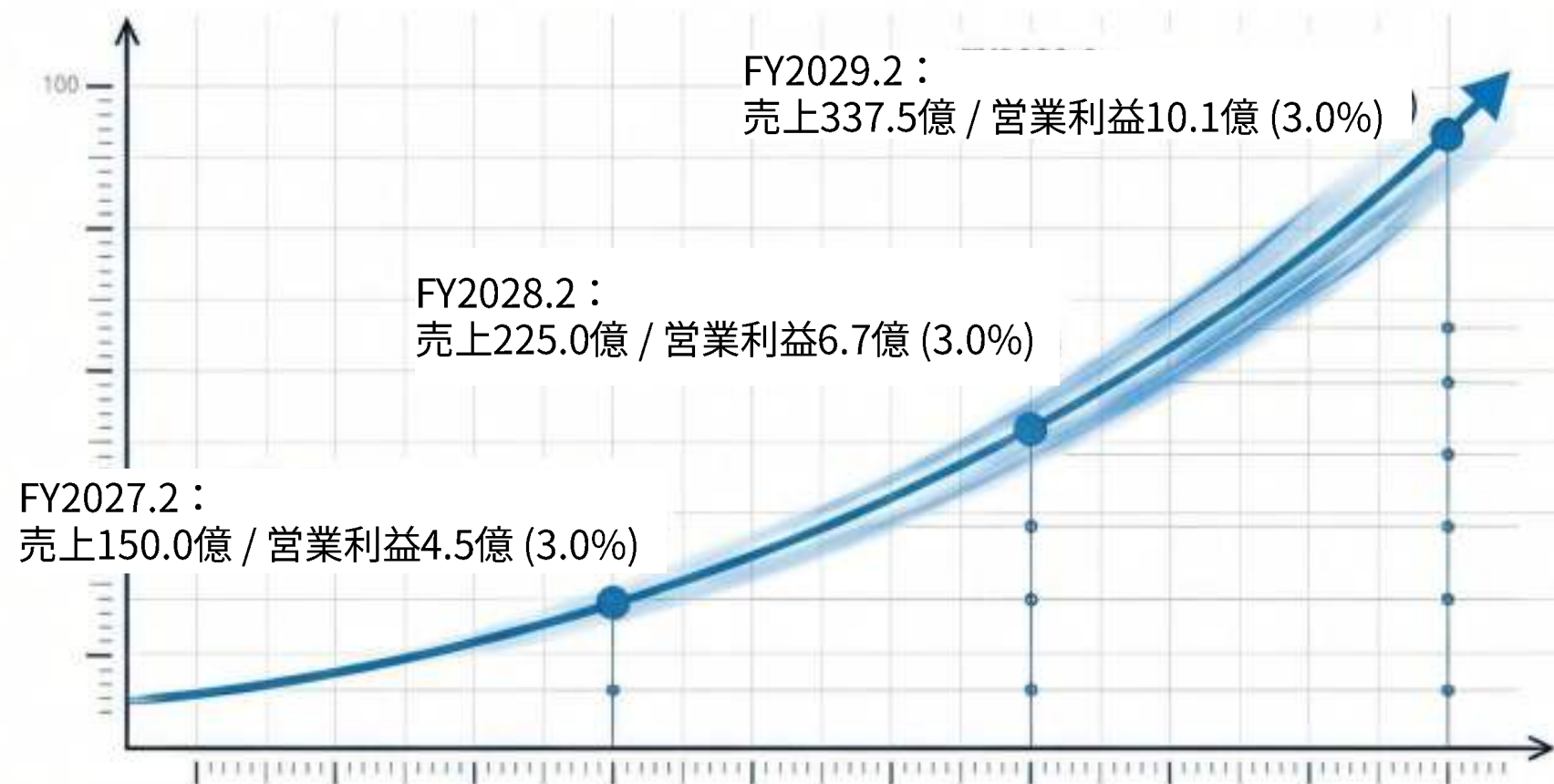
Core Value: AIインフラと蓄電池の両方を一社で手がける優位性。

VII

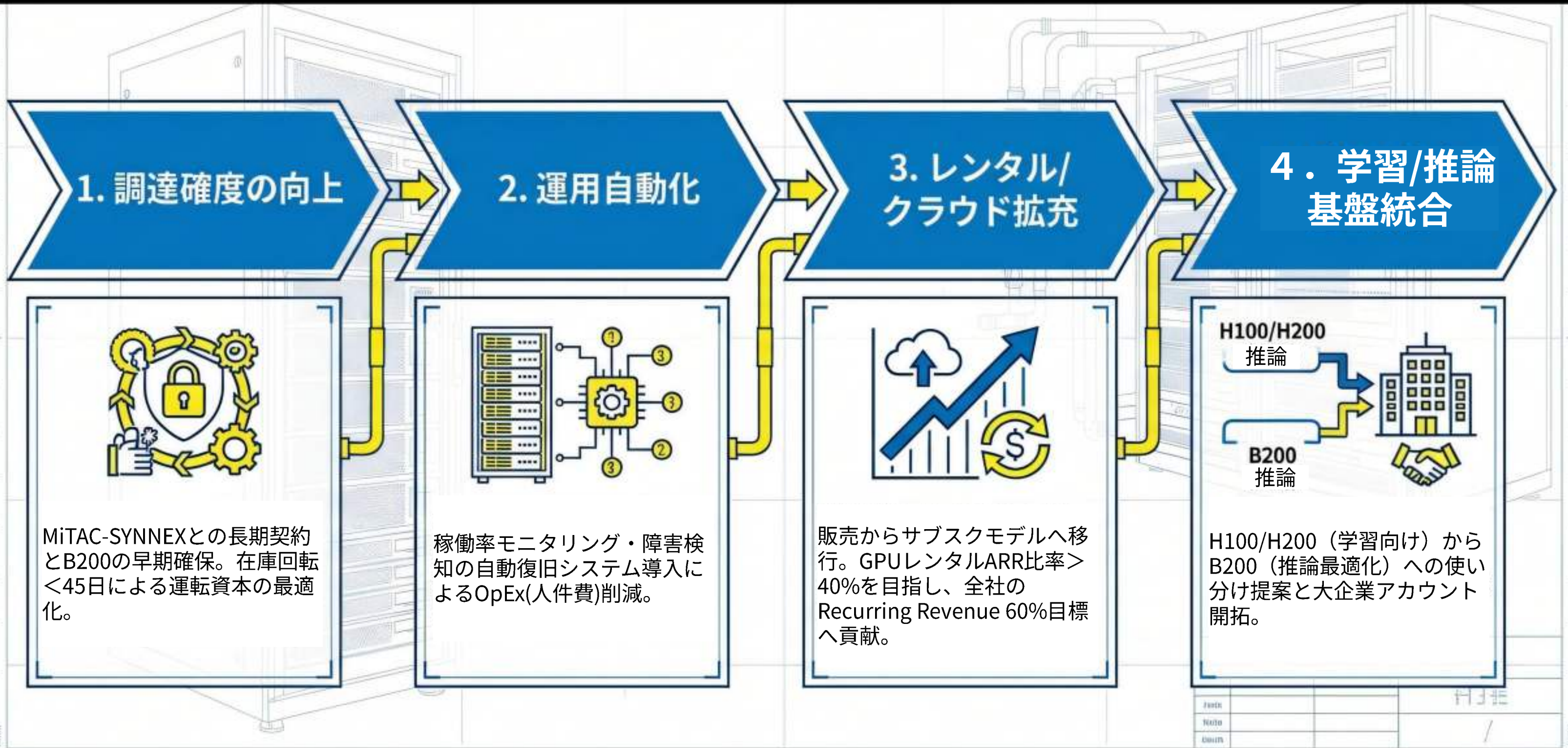
事業別計画

Business Plans by Segment

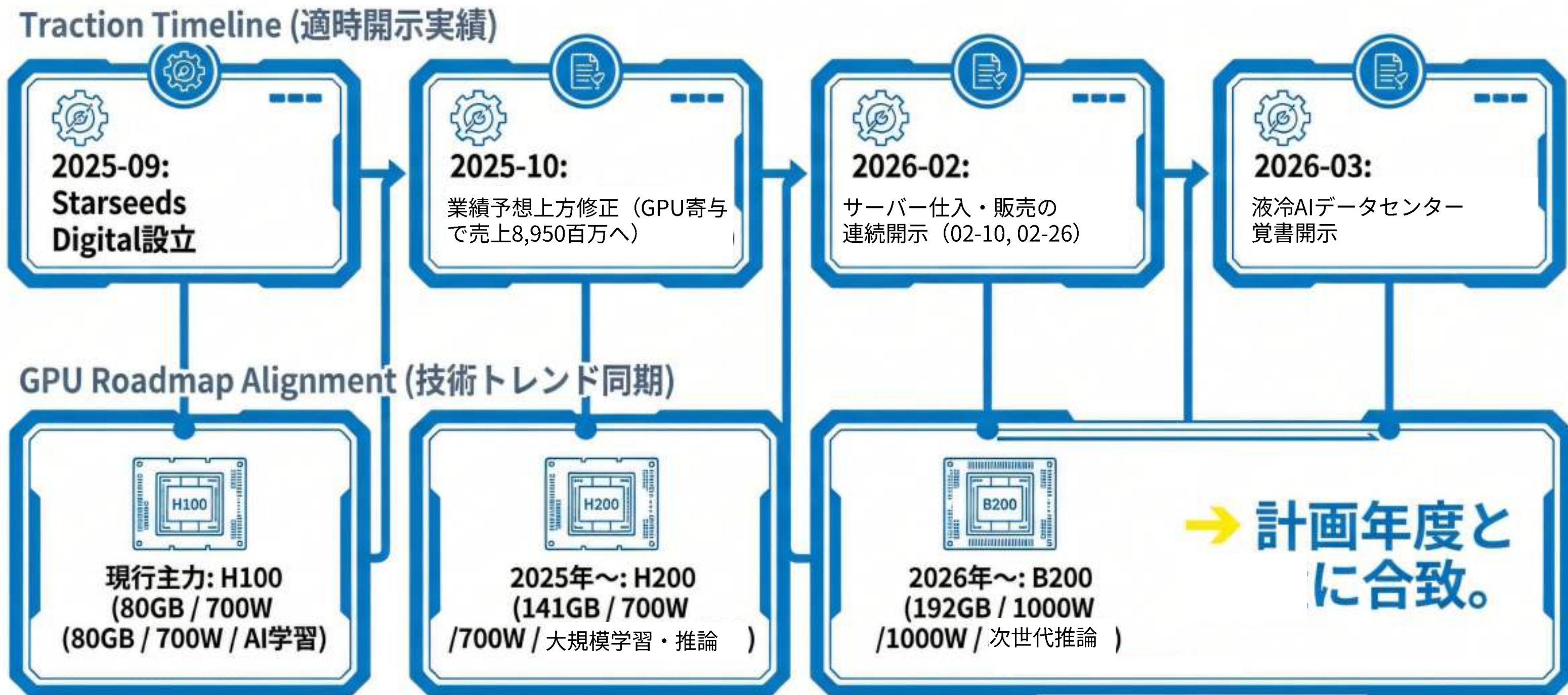
[GPUサーバー事業] : CAGR+50%のトップライン・ドライバー



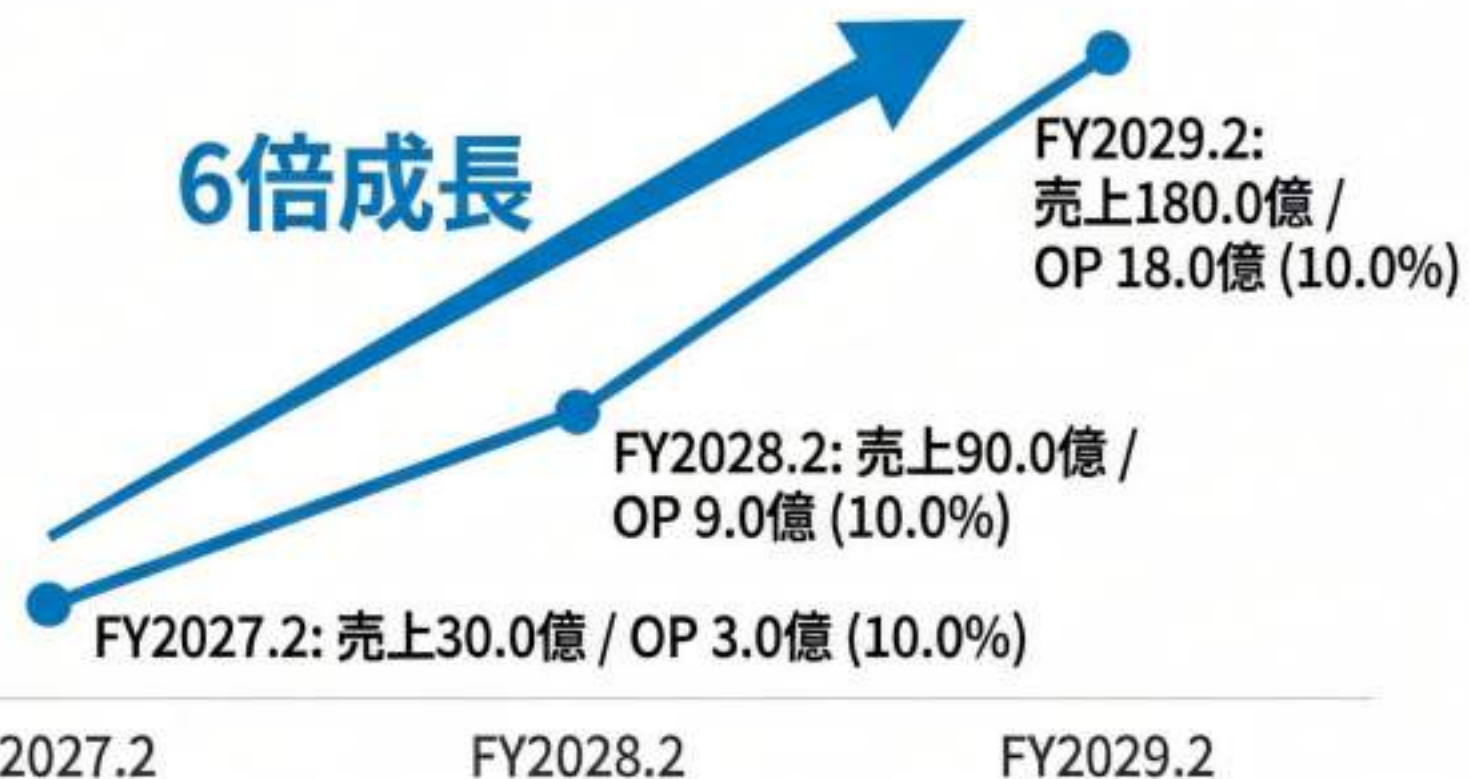
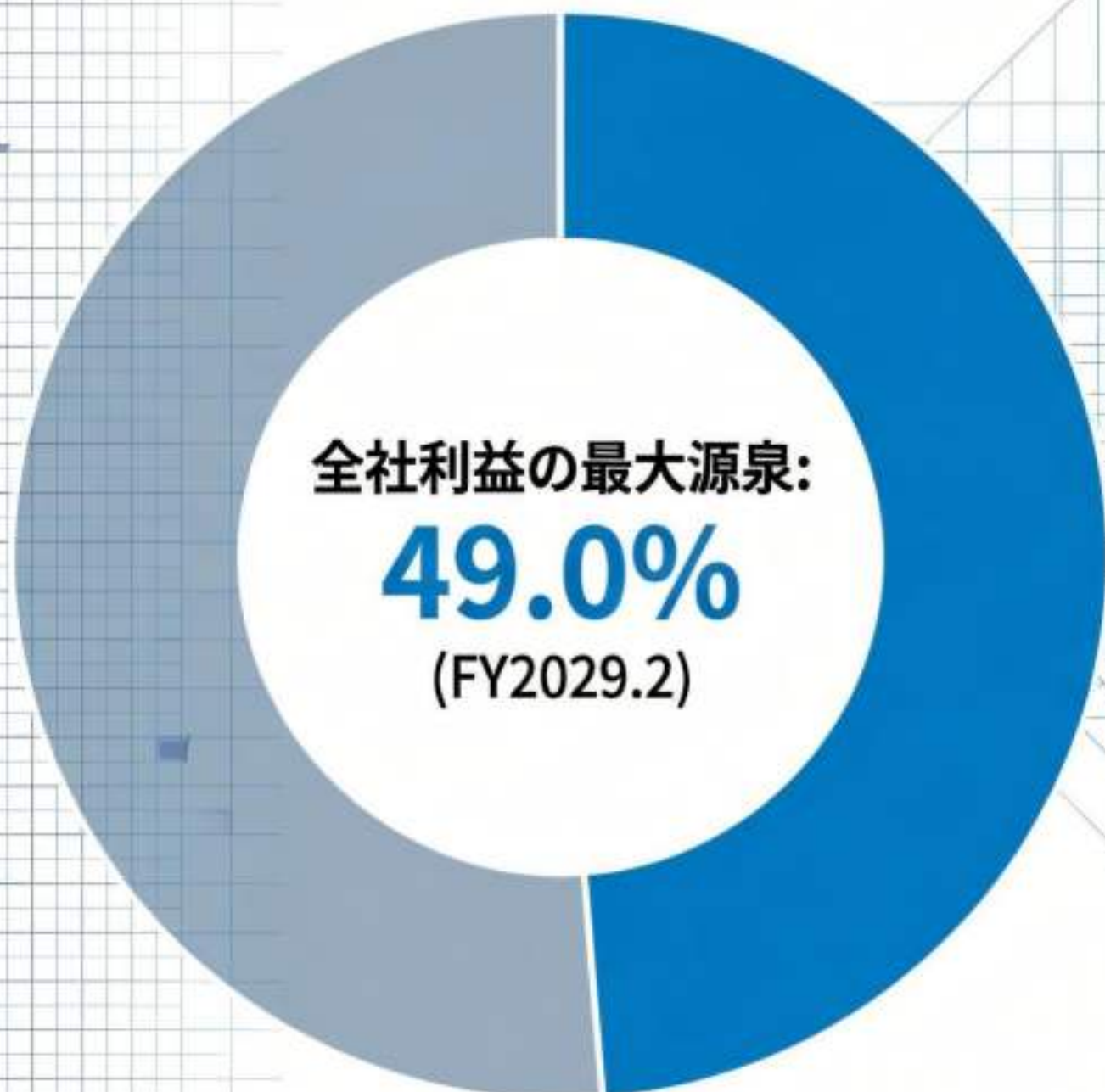
【GPUサーバー事業】 4つの重点施策：ストック収益モデルへ転換



【GPUサーバー事業】 成長の裏付け：開示実績と技術ロードマップ



[データセンター事業] 高収益化シナリオ：利益の半分を創出



Why it's the Core Driver:

- 圧倒的成長速度: わずか2年で売上・利益ともに6倍 (+200%成長/年) のスケールアップ。
- 安定した高収益性: 3-5年の長期契約による稼働率95%の維持と、GPUを凌ぐ安定した営業利益率 (10%) が、スターシーズの新しい基盤となる。

Closing Takeaway: 液冷技術とモジュラー設計の優位性により、スターシーズは全く新しいAIインフラ企業へと生まれ変わる。

業界最高水準の電力効率を実現する液冷AIデータセンター設計

冷却技術マトリクス



DLC (Direct Liquid Cooling)

- 方式: サーバーCPU/GPUへ直接冷却プレート接触(水/グリコール)
- PUE: 1.05-1.10
- 効率: 従来空冷比 +40%
- 対応: ~700W TDP / 8基GPU高密度ラックに最適



Immersion (液浸冷却)

- 方式: サーバー全体をフッ素系不活性液体等に浸漬
- PUE: 1.03-1.0
- 効率: 従来空冷比 +80%
- 対応: ~1000W+ TDP / 次世代B200等に完全対応

インフラストラクチャー技術仕様

GPUサーバー (DFX-DH560G)

- 搭載数: 最大8基 (H100 / H200 / B200対応)
- NIC: NVIDIA ConnectX-7
- 用途: AI学習 (Training) / 推論 (Inference)

ネットワーク・光通信

- 現行: 400Gbps (QSFP-DD)
- 次世代: 800Gbps (OSFP) → 将来1.6Tbps 規格対応

4つの重点施策

1. 液冷PUE1.1未満

2. モジュール設計

3. SLA保証

4. 長期契約

蓄電池事業：開発売却と長期運用で売上101.4億円を計画

蓄電池モデルのフロー



ビジネススリーム

売却

売上高	: 101.4億円
営業利益率	: 10.0%
年間出荷容量	: 200+MWh
受注残高	: 50億円超

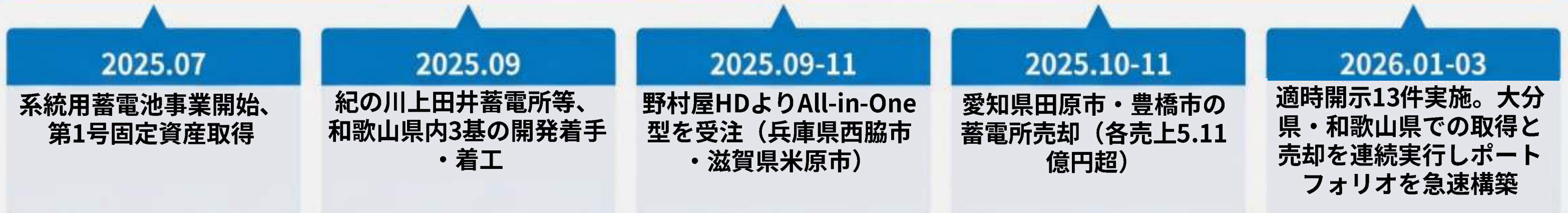
自社保有運営

- All-in-One型SS蓄電池システム
- 自社保有年出荷容量: 200+MWh
 - 受注残高: 50億円超
 - 蓄電池のバランスリと設定

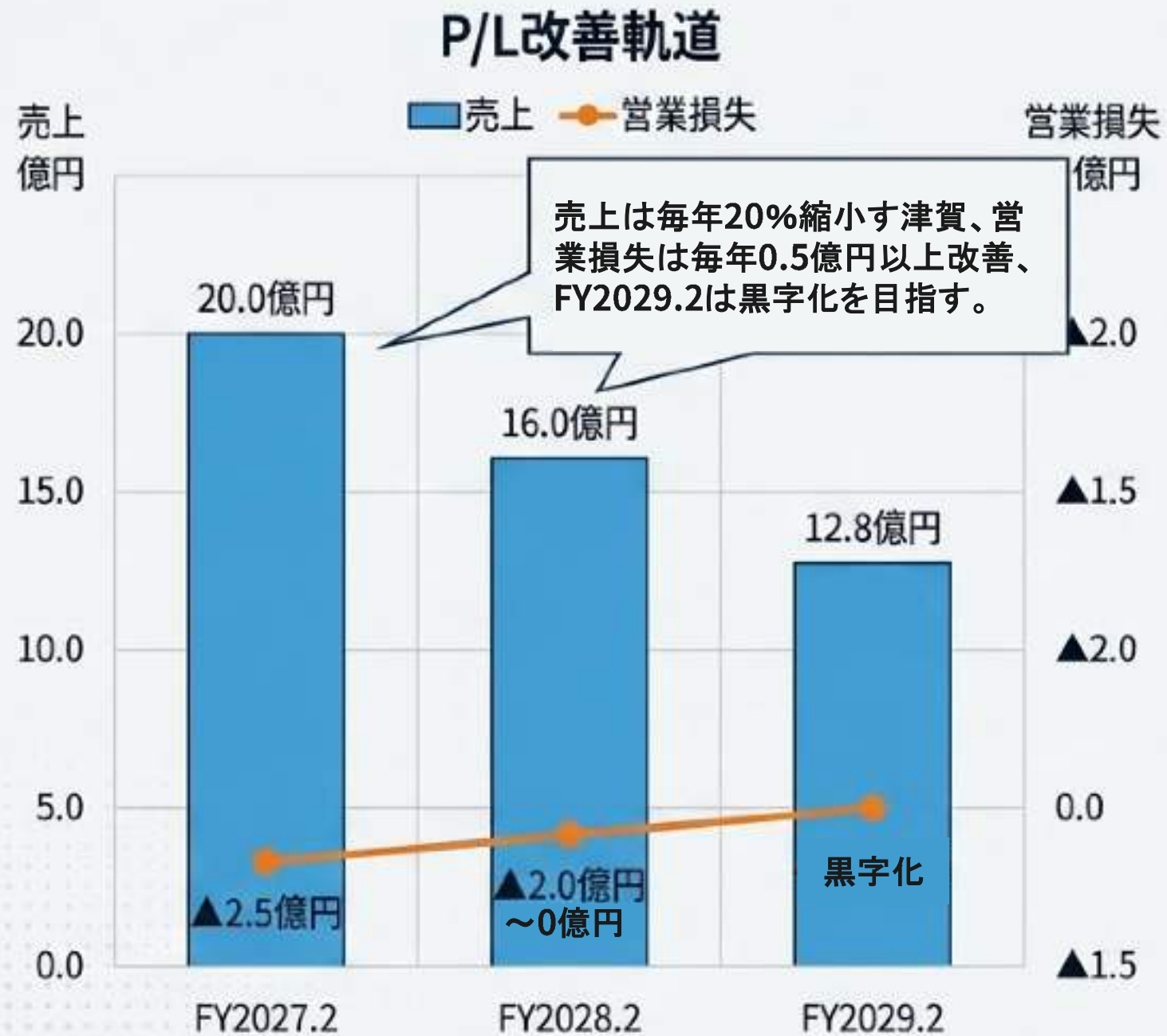
開始1年未満で受注残高50億円超を達成したエコシステムと実行力



2025年7月～2026年3月 取引実行タイムライン



アパレル事業の構造改革：計画的な赤字圧縮シナリオ



子会社・ブランドポートフォリオ最適化

合計約70店舗の選択と集中（リース満了に合わせた 段階的閉鎖）

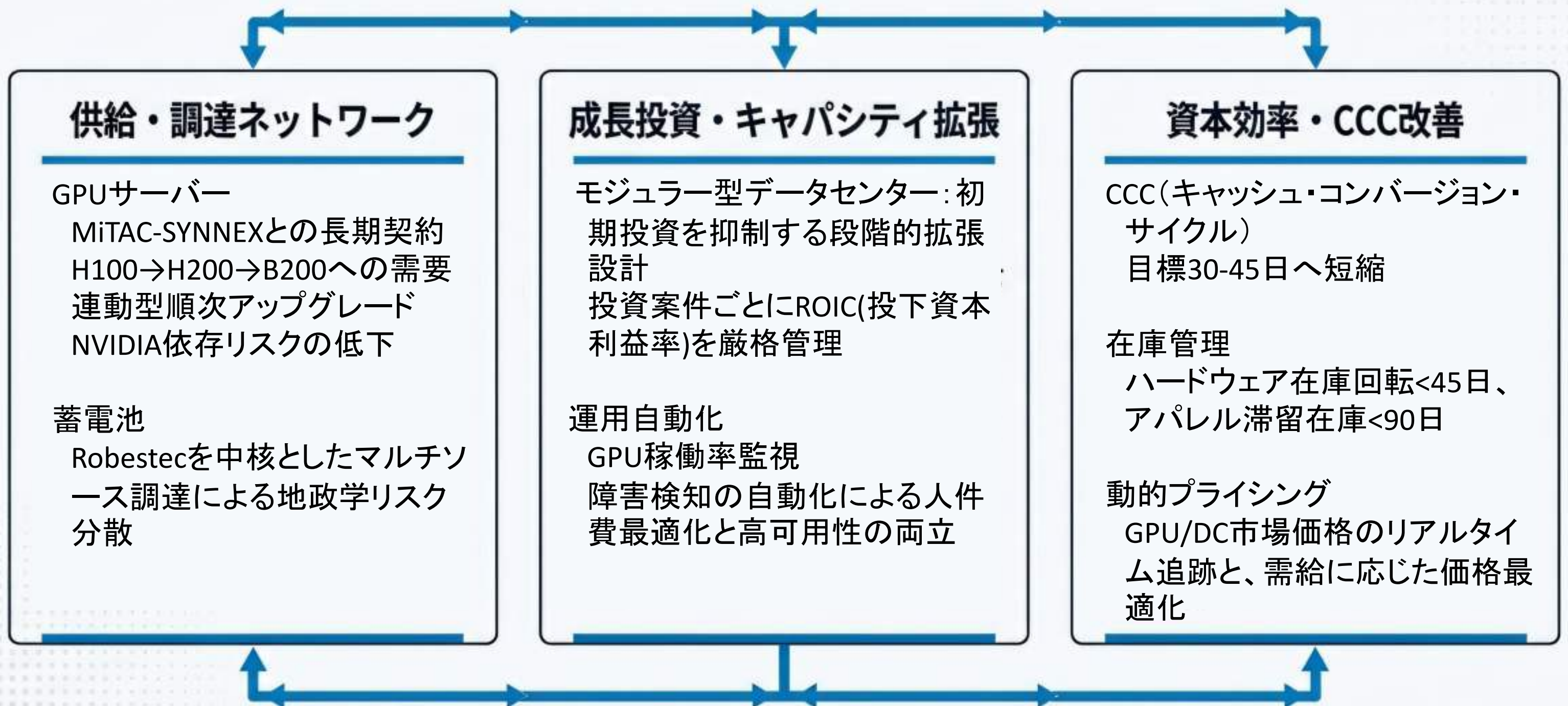
Enshin株式会社 (16店舗)	ブランド： METHOD (11店) 流儀圧搾 (4店)	アクション： セレクト衣料品の 不採算SKU廃止と 仕入原価率改善
株式会社SPIC (22店舗)	ブランド： TORNADO MART系 (14店) HIGH STREET系 (8店)	アクション： メンズファッションの 店舗網整理
株式会社チチカカ (32店舗)	ブランド： チチカカ	アクション： 独自世界観を活かした 自社ECサイト・ ライブコマース・ D2C強化

VIII

経営戦略と実行管理

Operations Strategy

投資規律とサプライチェーン強靱化を両立するオペレーション戦略



IX

財務計画

Financial Plan

FY2029.2達成に向けた全社クロスセグメントKPIダッシュボード

全社 (Corporate)

売上高CAGR (2期間) :
+56%

営業利益成長:
3.3倍 (FY27.2→FY29.2)

全社CCC:
30-45日

GPUサーバー (GPU Servers)

稼働率: **安定期90%+**
レンタルARR比率: **>40%**
売上CAGR: **+50%**

データセンター (Data Centers)

稼働率: **95%**
PUE: **<1.1**
契約平均期間: **3-5年**
営業利益率: **10.0%**

蓄電池 (Battery Storage)

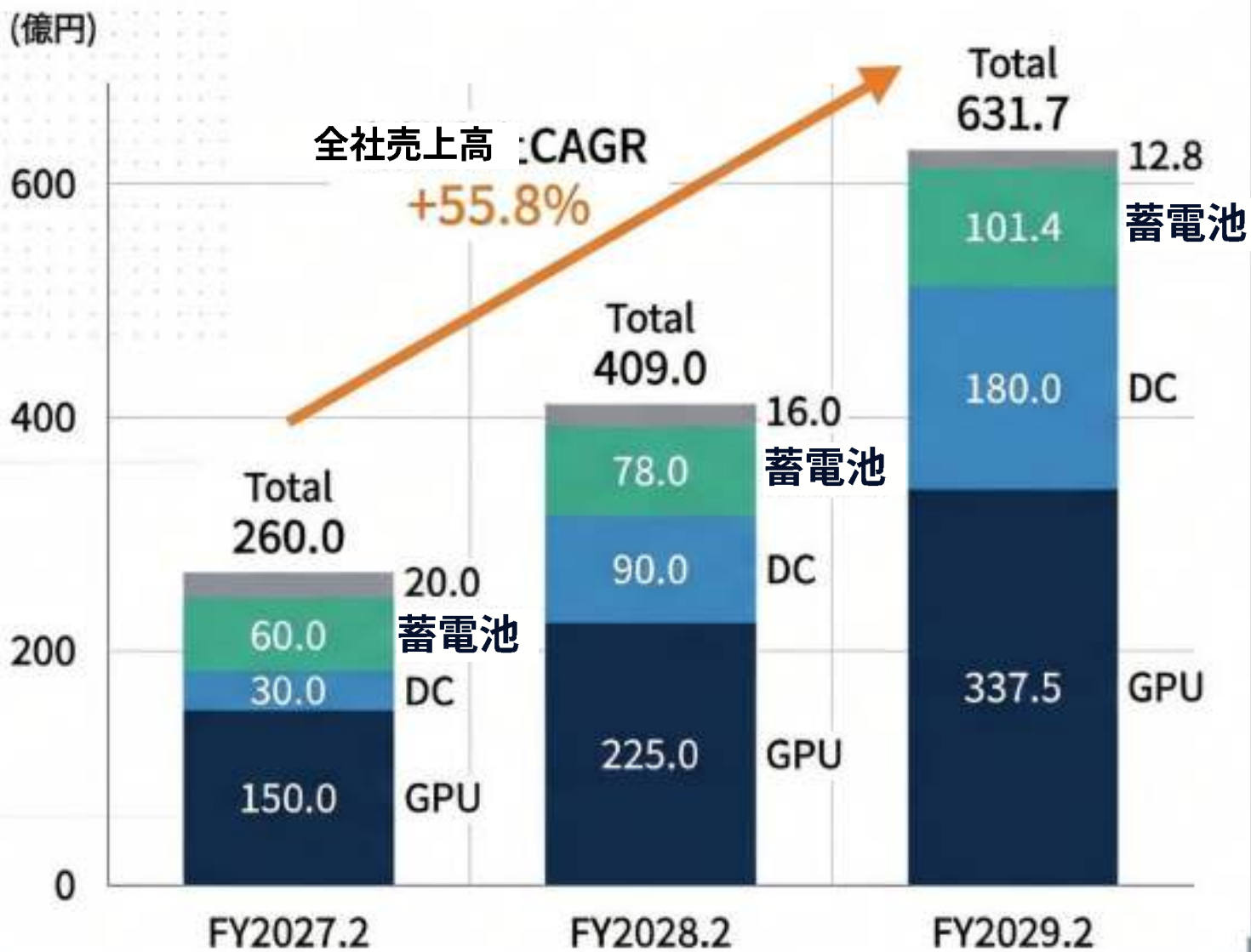
年間出荷容量: **200+MWh** 受注残高: **50億円超**
営業利益率: **10.0%** 年率成長: **+30%**

アパレル (Apparel)

在庫回転日数: **<90日**
赤字縮小: **年0.5億円改善**

FY2029.2に売上高631.7億円、営業利益36.7億円へ到達

連結売上高推移（億円）



営業利益（億円）・営業利率



AIインフラ（GPU+データセンター）とエネルギー（蓄電池）の3つの成長エンジンがほぼ牽引する収益構造ヘシフト。アパレル事業の売上構成比はFY2029.2時点で2.0%に縮小。

セグメント別利益構造の変革とROICに基づく厳格な資本配分

FY2029.2 営業利益構成 (合計: 36.7億円)

データセンター: 18.0億円 (利益率 10.0%) 49.0%	GPUサーバー: 10.1億円 (利益率 3.0%) 27.5%
	蓄電池: 10.1億円 (利益率 10.0%) 27.5%

アパレルは黒字化
浮上を目指す

投資計画・資本配分の考え方

GPUサーバー	運転資本(在庫)	<45日	需要連動型調達
データセンター	CAPEX	3-5年(契約)	モジュラー段階拡張
蓄電池	運転資本+CAPEX	6-12ヶ月	開発→売却サイクル の超高速回転
アパレル	新規投資なし	-	撤退・縮小投資のみ

成長投資を最優先しつつ、新規事業記念配当（2026.01）の実施や業績連動型配当方針も検討し、株主還元とのバランスを維持。

X

株主価値の向上とリスク管理

Risk Management

株主価値向上シナリオと成長を担保するリスクマネジメント



発生確率 (Probability)	AI需要の循環的変動、DC運用事故 (対策: ARR収益安定化、SLA冗長設計)	NVIDIA GPU割当制限、大型CAPEX、DC建設遅延 (対策: マルチソース、ROIC管理、モジュラー設計)	AIインフラ人材確保 (対策: 報酬競争力強化・育成)
		蓄電池セル調達中国依存、補助金制度変更 (対策: 国内代替、非依存モデル構築)	電力市場価格変動・為替変動 (対策: 長期契約、為替ヘッジ、価格転嫁条項)
	影響度 (Impact)		

セグメント別SWOT分析：事業環境と競争優位性の評価

	S (Strengths)	W (Weaknesses)	O (Opportunities)	T (Threats)
GPUサーバー	<ul style="list-style-type: none"> ✓ MiTAC-SYNNEXグループ調達関係 ✓ 業績上方修正の実績 	<ul style="list-style-type: none"> × 営業利益率(3.0%) × NVIDIA依存 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 日本のAI投資拡大 ✓ B200次世代GPU早期対応 	<ul style="list-style-type: none"> ⚠ NVIDIA割当制限 ⚠ 価格競争激化
データセンター	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 液冷技術(DLC/Immersion) ✓ PUE<1.1 ✓ モジュラー設計 	<ul style="list-style-type: none"> × 大型CAPEX必要 × 運用実績・Tier III+未取得 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国内DC需要急増 ✓ 液冷DC市場の黎明期 	<ul style="list-style-type: none"> ⚠ 大手DCとの競合 ⚠ 電力料金上昇 ⚠ 許認可リスク
蓄電池	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 受注残高50億円超 ✓ 強固なパートナーエコシステム 	<ul style="list-style-type: none"> × 中国サプライヤー依存 × 事業歴1年未満 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 再エネ政策 ✓ 系統用需要急増 ✓ カーボンクレジット 	<ul style="list-style-type: none"> ⚠ 補助金変更 ⚠ 大手エネルギー参入
アパレル	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 約70店舗の販売網 ✓ チチカカの独自世界観 	<ul style="list-style-type: none"> × 赤字事業 × 在庫回転の遅さ 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ EC・ライブコマース市場成長 	<ul style="list-style-type: none"> ⚠ 市場縮小 ⚠ 原材料価格上昇

App Appendix

Corporate Profile & Glossary

コーポレートプロフィールと事業構造転換を牽引する新体制

会社名：	スターシーズ株式会社 (Starseeds Inc.)
証券コード：	3083 (東証スタンダード)
代表取締役：	鈴木 雅順

変革のマイルストーン：
2024年11月に社名変更し、レガシー事業から高成長AI・エネルギー事業への構造転換を推進中。



テクニカル・グロッサリー（主要用語定義）

財務・KPI指標

ARR (Annual Recurring Revenue)

— 年間経常収益。サブスクリプションや長期契約による安定収益基盤。

CAGR (Compound Annual Growth Rate)

— 年平均成長率。

CCC (Cash Conversion Cycle)

— 現金循環現金循環化日数。資金効率を示す最重要指標の一つ。

CAPEX (Capital Expenditure)

— 設備投資設備投資（データセンター建設等）。

ROIC (Return on Invested Capital)

— 投下資本投下資本利益率。投資規律のハードル・レート。

LTV (Lifetime Value)

— 顧客生涯値。顧客生涯価値。

テクノロジー・インフラ指標

PUE (Power Usage Effectiveness)

— データセンターの電力利用効率。1.0が理想値であり、本計画では1.1未満を目標とする。

DLC (Direct Liquid Cooling)

— 直接液冷方式。サーバー部品に直接冷却液を循環させる技術。

Immersion

— 液浸冷却。サーバー全体を専用液体に沈めて冷却する高効率技術。

LFP (Lithium Iron Phosphate)

— リン酸鉄リチウム電池。発火リスクが低く寿命が長い蓄電池セル。

TDP (Thermal Design Power)

— 熱設計電力。GPUの発熱量を示す。

SLA (Service Level Agreement)

— サービス品質保証（稼働率99.98%等）。

免責事項および情報ソースに関する注意事項 (Disclaimer)

将来の見通しに関する注意事項 (Forward-Looking Statements)

本資料に記載されている業績予想、事業計画、目標数値等の将来に関する記述は、本資料作成時点で入手可能な情報の当社の判断に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。将来の業績に影響を与えうる主な要因には、以下のものが含まれますが、これらに限定されるものではありません：

- GPU (H100/H200/B200等) の供給状況およびNVIDIA社の割当方針の変更
- AI関連市場の需要変動および競争環境の激化
- データセンター建設の進捗状況、許認可の取得遅延
- 蓄電池事業に関する電力市場価格の変動、および国・自治体の補助金制度の変更
- 為替レート (USD/JPY、CNY/JPY) の変動および金利環境の変化
- 法規制の変更、自然災害、感染症等の不可抗力
-

数値の出典および投資判断について

本資料に記載された数値は、当社が合理的と判断した前提に基づいています。各適時開示の参照はTDNet (東京証券取引所適時開示情報閲覧サービス) の公式情報に基づいています。

本資料は情報提供のみを目的としたものであり、特定の有価証券の売買を推奨するものではありません。投資に関する最終決定は、ご自身の判断と責任において行われるようお願いいたします。